

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第44回 埼玉県医学検査学会 学術情報

1. 学会企画が決定しました!!!

学会企画Ⅰ：Quiz がんを識(し)る — 明日から役立つポイント —

「がんを発症するのは2人に1人」と言われる現在、臨床検査技師は多かれ少なかれ、この病気と仕事上関わっていくことになります。自分の持っている「がん」に関する知識は正しいのか、最新のものなのか・・・気になるところですね。

学会企画としてクイズ形式で検査の知識をチェックし、解説を聞いてさらに理解を深め、最新機器を使用してその場で集計結果を見る能够性（Smart Click System）企画しました。

当たったりハズレたり・・・みんなでワイワイ・ガヤガヤ楽しみながら知識の整理とBrush upをしませんか？

学会企画Ⅱ：ライブで識(し)ろう！— 基本を制する者は、がんを制す —

講師：関根智紀（総合病院国保旭中央病院診療技術部超音波検査室）

超音波検査の現状について、第64回日本医学検査学会で「がん診療連携拠点病院における超音波検査の現状」として埼玉県がん臨床検査ネットワークから報告が行われ多くの反響がありました。人員不足の現状から人材育成が急がれる一方、技師間差や施設間差、手順マニュアルの不備などが喫緊の問題として浮き彫りになりました（THE MEDICAL&TEST JOURNAL 2015.6.11発行）。

本年、日本臨床衛生検査技師会の監修でJAMT技術教本シリーズとして企画された「超音波検査技術教本」は、超音波検査のリファレンスとなるべく出版されたものです。本学会企画は教本の編集委員として執筆に関わった関根先生による「がんを見落とさないための講演」と基本走査を再確認し「腫瘍を見つけ出す検査の進め方・判読の仕方についてのライブデモ」を企画いたしました。

超音波検査分野で第一人者といわれる関根先生の超音波テクニックを余すところなく伝授いただき「がん」を見落さないための超音波技術を学ぶ、明日から直に役立つ実践企画です。

2. ヤングジェネレーションセミナーを企画しました。

夢へのサポーターであれ！～次世代のみなさんへ～

講師：塚本泰史（大宮アルディージャアンバサダー）

塚本氏は2008年大宮アルディージャに入団、2009年には右サイドバックのポジションでレギュラーとして活躍していました。しかし2010年2月、右大腿骨骨肉腫に罹患していることがわかり腫瘍の切除および人工関節への置換手術をうけました。2012年1月25日より大宮アルディージャのアンバサダーに就任し、自身の病気と向き合いながらさまざまな挑戦を続けています。

若き「がんサバイバー」としての様々な苦悩やどんな境遇の中でも決して諦めないで努力する姿勢、そして病気と向きあっている今の姿を「識る（知る）」機会を得ることで、患者さんと日々接している若い臨床検査技師や医療を目指して学んでいる学生が「将来を担う医療スタッフとしてのホスピタリティーとは何なのか」を考えるきっかけを作りたいと思います。

一人ひとりの心に響くセミナーとなればと願います。

（学術部 伊丹直人）



埼臨技 新入会員向け研修会のおしえ

今年度より、埼玉県臨床検査技師会では「新入会員向け研修会」を開催することになりました。これは、技師会に未入会の方に日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技）や地方の臨床検査技師会の体制、仕組みを知ってもらい、新規の入会者数を増やす入会促進対策と、新たに会員となった臨床検査技師に対し、日臨技会員として必要な知識や情報を伝達し、今後より積極的なかかわりを持って技師会活動や学会発表などの研究活動を行ってもらうことを目的に開催する研修会です。

研修会の内容は、埼臨技の副会長である、岡田茂治 日臨技理事に日臨技の概要や各種事業、知って得する会員特典の紹介など、技師会に入会を考えている方にもぜひ聞いてもらいたい情報ばかりです。また、日臨技だけでなく、埼臨技についても津田聰一郎 会長より紹介をさせていただきます。ちょっと難しい話を聞いたあとは、埼臨技学術部のみなさんより、業務を始めたばかりの新人さんに「聞いて勉強になった！業務の参考になった!! 次は研究班の研修会に行ってみたい!!!」と言ってもらえる講演をお願いしています。

研修会は日臨技の助成にて行いますので、普段の研修会と異なり参加費の徴収は行いません。技師会のことを知れて、勉強できて、さらに参加費もかからない大変お得な研修会になっています。

最後に、研修会のタイトルは新入会員向け研修会となっており、「今年度入会した会員」もしくは「現在、技師会に入会を考えている方」を対象にした研修会になっていますが、それ以外の一般的の会員の方の参加ももちろんOKです。先輩から新人さんに声かけて、一緒に参加してこれから検査室を担っていく若手に技師会の雰囲気を感じ取ってもらうのはいかがでしょうか!!

開催日時：平成27年11月5日 19:00～21:00

開催場所：大宮ソニックスティ906号室

（事業部長 濱本 隆明）



須永隆雄名誉会員のご逝去を偲んで

埼玉県済生会川口総合病院

山口 純也(埼臨技学術部長)

公益社団法人埼玉県臨床検査技師会の名誉会員である須永隆雄先生が去る8月12日に亡くなられました。突然のこと驚くとともに動揺を隠すことができませんでした。

須永先生は埼玉県済生会川口総合病院の元技師長であり、私の直属の上司でありました。先生は、臨床検査の先駆者として、特に臨床化学を専門とし、多くの業績を残していました。また、埼玉県臨床検査技師会の理事・会長としても多くの功績を残され、それらが認められて叙勲を受章されました。

私の思い出に残っていることは、先生は、技師長になっても血中薬物検査だけは自分で、しかも、用手法で行っていたことです。その時から血中薬物濃度の重要性を語っていました。また、プライベートでも色々とご指導をいただきました。その際、忘れられない、いつも決まっている仕草がありました。めがね越しに上目使いで見ながら指導されることです。

退官した後も時々検査室を訪れ、昔からの趣味である考古学について、「この歳になんでも、大学の考古学教室に入り、旅行がてら遺跡巡りをし、全国を飛び回っているんだよ」と熱く語っていました。

そのような先生のことですから、天国でもこれから何をしようか考えている最中だと思います。

須永先生、今までありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌



2005年7月 瑞宝双光章授賞式典にて

須永さんを偲んで



埼玉県済生会川口総合病院 臨床検査科の皆様と一緒に
(瑞宝双光章授賞式典にて)

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 生理検査の「最初の一歩！」講座その2

主催 生理検査研究班

実施日時：平成27年5月30日 14時30分～16時40分

会場：自治医科大学附属さいたま医療センター 講堂 点数：専門教科－20点

講演1：肺機能検査の基本

講師：家城 正和（埼玉県立がんセンター）

講演2：血液ガスデータの解釈

講師：長谷川 剛（ラジオメーター株式会社）

参加人数：会員63名

出席した研究班班員：野本隆之 仲野浩 瀧沢義教 家城正和 高梨淳子 早川勇樹

田名見里恵 丸山陽介 横尾愛

研修内容・感想など

今回は、一 生理検査の「最初の一歩！」講座その2－として、研修会を開催した。

講演1は、肺機能検査の基本について家城技師に講演していただいた。呼吸機能検査は呼吸器疾患の診断や気管支拡張薬の効果判定、外科的治療における術前検査、障害認定等、臨床上欠かすことのできない検査となっている。呼吸器疾患の中でもCOPDは、潜在患者が多く2020年には死因の第3位に上がるとの報告があり、現在、早期発見・早期治療が求められている。COPDの主な症状は咳や息切れであるが、初期の段階では血液ガスや胸部レントゲンで異常を見出さないため、早期発見には正しい呼吸機能検査が必要不可欠である。講演では、正しく呼吸機能検査を行うために必要な①機械の精度管理、②VC・FVC検査の進め方、③結果の妥当性の評価・採択についての話があった。また、今回の講演では、ある病院新人○○君の呼吸機能検査室での1日の紹介があった。朝の精度管理から始まり、検査の実際、結果報告までを漫画ストーリー仕立てで話が進んだ。講演の後半では、この日の○○技師のいけなかつた点を研修会参加者で考えた。参加者からは精度管理の誤り、検査時の患者姿勢、測定回数や報告結果の誤りなどの指摘があった。呼吸機能検査業務に従事するわれわれ技師としては、検査を見直す機会となりよい企画であった。

講演2は、血液ガスデータの解釈との演題で長谷川氏に講演していただいた。

内容は血液ガス測定目的から始まり、pH、pCO₂およびpO₂測定の意義、酸塩基平衡の基礎や酸素化状態の把握などについて学んだ。講演の後半では、症例を提示していただき血液ガスデータの詳しい解説があった。症例紹介に先立ち酸塩基パラメータ、酸素関連パラメータの基準値、酸塩基平衡の基本的な見方の話があった。血液ガスデータを解釈するには、ステップ1としてpHを確認する。ステップ2としてpH変化の理由を探し、呼吸性か代謝性なのか？を考える。ステップ3として急性か慢性かを確認し、代償作用について考え総合的に判断していくとの話であった。講演の最後には、提示された5症例の血液ガスデータを研修会参加者で考え解答していく。

血液ガスの測定は、直接呼吸・循環状態を反映する重要な位置を占めている。また、緊急性が高い検査であり勉強になった。

(文責：瀧沢義教)

テーマ 学ぼう！BLS・AEDについて

主催 生理検査研究班

実施日時：平成27年6月6日 14時30分～16時45分

会 場：深谷赤十字病院 多目的ホール 点数：基礎教科－20点

講 演 1：AEDの心電図について学ぼう

講 師：清水 雄三（日本光電株式会社）

講 演 2：使えますか？AED

講 師：阿部美智子、武田 義夫（深谷赤十字病院）

参加人数：会員22名

出席した研究班班員：野本隆之 仲野浩 瀧澤義教 田名見里恵 横尾愛

研修内容・感想など

今回の研修会は「学ぼう！BLS・AEDについて」というテーマのもと、医療従事者として知っておきたい一時救命処置の知識と技術の習得を目的として研修を行った。

講演1は「AEDの心電図について学ぼう」と題し、清水氏にAEDの基本的な使用方法から、内部ではどのように心電図波形解析がなされているのか解説していただいた。普段見る事が出来ない自動解析の仕組みや、除細動実施の有無を決定する因子など学ぶことができ、貴重な講演であった。ノイズが混入すると正確な波形解析ができないなど、私たちが気を付けるべき点が心電図波形を交えて示されており理解しやすい内容であった。

講演2では「使えますか？AED」と題し、阿部技師と武田技師による実演付きの指導が行われた。会場には蘇生トレーニング用のマネキン6体が準備され、参加者もグループに分かれて実際に気道管理や胸骨圧迫など基本動作の確認を行い、AEDを用いた除細動まで練習する事ができた。

音声ガイドスに従えば簡便に使用できるAEDは近年、公共施設や駅など多くの場所で目にするようになった。万が一の際にも適切な対応のできるスキルを身につけるためには、反復練習が不可欠ある。AEDやBLS講習を受講したことのある参加者も多かったと思うが、今回の研修会は復習の良い機会であったと思われる。

(文責：田名見里恵)

テーマ 国際水準の臨床検査室と外部評価について

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成27年7月4日 14時10分～17時00分

会 場：東京都立墨東病院 点数：専門教科－20点

講 演 1：新しい分析装置についての紹介

講 師：岩橋 伸剛（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）

講 演 2：ISO15189認定に関しての経緯と取得後の検査室1

講 師：長谷川 修（株式会社ビー・エム・エル品質管理部 品質管理課）

講 演 3：ISO15189認定に関しての経緯と取得後の検査室2

講 師：小野 佳一（東京大学医学部附属病院 検査部）

講 演 4：国際水準の臨床検査室と外部評価について

講 師：笠井 宏委（京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター開発企画部）

参加人数：会員61名 賛助会員16名

出席した研究班班員：三木隆治 巖崎達夫 柴田真明 永井謙一 安田達明

大谷真澄 大地康文 稲山拓司 大出淳 藤本丈志

研修内容・感想など

今年度の臨床化学3県合同研修会は埼玉県の担当で、「国際水準の臨床検査室と外部評価について」というテーマのもと4名の講師に講演していただいた。

講演1では、岩橋氏に生化学・免疫統合型分析装置「cobas 8000」の機能と特長について、わかりやすく説明していただいた。

講演2では、長谷川氏に「検査センターにおけるISO15189取得に関して」というタイトルで講演していただいた。ISO15189だけでなく、医療関連サービスマーク、CAP認定（検査施設基準）、ISO9001認証（品質マネジメントシステム）、ISO14000認証（環境マネジメントシステム）、ISMS認証（情報セキュリティマネジメントシステム）、プライバシーマークなどの他の認証についても、取得の意義や更新の内容など幅広く細かいところまで説明していただいた。

講演3では、小野氏に「病院におけるISO15189取得に関して」という内容で講演していただいた。こちらは病院の検査室における品質文書の作成の仕方から、病院内での勉強会、検査室の美化活動、検査試薬及び消耗品の管理などをわかりやすく写真を使った講演をしていただいた。

最後の講演4では、笠井氏に「国際水準の臨床検査室と外部評価について」というタイトルで講演をしていただいた。治験薬の開発の流れから、治験に関わる省令、治験における精度管理の考え方など難しい内容もあったが、京都大学医学部附属病院におけるISO15189取得の経緯と取得後について等の貴重な情報を、わかりやすく講演していただき参考となった。

検査施設におけるISO15189取得は、今や大きな関心事となっていると思われるが、実際に取得するにはどのような手順で進めたら良いか、また取得後はどうになるのか、施設にとってのメリットとなる事は何か？取得を考えている施設やそうでない施設でもISO15189の名前は知っていても、内容はよく理解できないままでいる会員の方々が多いと思われる。今回の研修会は、そのような疑問に対して少しでも整理や理解が進められたことができた内容であったと思われた。今後ISO15189取得を考えている施設は、品質文書の作成方法や病院内での教育活動について、今回の研修を参考にしていただきたいと希望する。

（文責：藤本丈志）

テーマ 第23回 脂質ミニサーベイ報告会

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：平成27年7月23日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックスティ 604号室 点数：専門教科－20点

講師：柴田 真明（上尾中央総合病院）

藤本 丈志（ビー・エム・エル総合研究所）

稻山 拓司（深谷赤十字病院）

大谷 真澄（埼玉県立小児医療センター）

大地 康文（さいたま市立病院）

三木 隆治（獨協医科大学越谷病院）

参加人数：会員34名 賛助会員12名

出席した研究班班員：三木隆治 巖崎達矢 柴田真明 永井謙一 安田達明 大谷真澄

藤本丈志 稲山拓司 大地康文

研修内容・感想など

今年で23回目となった脂質ミニサーベイは、リポ蛋白の変性などにより市販管理血清では評価が難しい脂質項目（TC、TG、HDL-C、LDL-C）について、可能な限りヒト由来の新鮮な血清を用いて評価する事を目的としている。参加施設数は41施設（メーカー4社を含む）であった。また今回は参考調査としてアミラーゼを測定してもらい、基質による差などの調査を行つた。

集計結果ではTC、TGについては全体的に収束した結果であった。TGは現在フリーグリセロール（FG）消去法が国内の標準化法であるが、ヘパリンによる抗凝固療法において測定値が経時に低値化していく問題がある。今後FG消去法からFG未消去法への見直しが行なわれる

かもしれない。HDL-Cでは高濃度試料で差が見られ、今後一括評価が難しい可能性が出てきた。LDL-Cでは低濃度試料で測定値が二分化し、高濃度試料でも同様な傾向がみられた。傾向としては測定原理で分かれており、選択的可溶化法か選択的消去法かで測定値に差が出た。ただし、中濃度試料（正常域）では全体的に収束した結果が例年出ているのも事実である。現状では全ての検体で同様な結果を出すのは難しく、リポ蛋白測定に限界があるということを改めて認識させられた。

参考調査のアミラーゼは標準化が進んでいるにも関わらず、使用する基質が多種存在する。今回の調査では基質による測定値の差はなかったが、P/S比が通常とは異なる検体や一部の糖尿病治療薬では測定値に差が生じる場合があるので注意が必要である。

小規模なサーベイではあるが、現状で実施可能な最良のサーベイと思われる。今後とも継続して実施していくため、参加施設の御協力をお願いしたい。

(文責：大地康文)

テーマ **DIC診断基準の新しい活用法～「DIC診断基準暫定案」を読んで診よう～ 血液凝固検査の知っておきたい基礎知識Ⅱ — 暫定案を活用した新しい凝固検査の学び方 —**

主催 血液検査研究班

実施日時：平成27年7月23日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックスティ 601号室 点数：専門教科－20点

講師：須長 宏行（積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター 学術東日本グループ）

参加人数：会員85名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 橋口恵子 原誠則
圓田和人 岡安幸子 軍司雅代

研修内容・感想など

止血検査の基礎から始まりDICの基礎とその治療薬までの解説があった。毎年話に上がっているPT試薬のヘパリン中和剤については、各社の添付文書の抜粋が示された。まだ読んでない方は一度添付文書の記載を確認し、どの程度のヘパリンが添加されているか、または無添加であるか、ぜひ確認されたい。

また、血漿蛋白分画の β ～ γ 分画に属するフィブリノゲンはアルブミン等が半減期20日前後であるのに対し、半減期4日前後と大幅に短くCRPと同様急性期の炎症の指標となるが、高齢者や妊婦も高値化することも念頭に入れておきたい。

DICの基礎知識の解説では、凝固線溶のバランスが崩れると出血しやすくなる等、目で見える病態として表れているよりも、凝固優位で線溶抑制が過剰な場合は、Dダイマーの上昇が微増にとどまり、病状の把握が難しい。さらに線溶系において、プラスミンはフィブリノゲンより安定化フィブリンと反応しやすいため、二次線溶は一次線溶より先に起こる・・・という点において、臨床症状と合致しないなどの問合せ時に参考となる内容であった。

DIC診断基準の問題点としては、旧厚生省DIC診断基準は感染症に合併したDICの早期診断には不向きであり、急性期DIC診断基準は、血液内科で遭遇するDIC症例を診断できないことが指摘された。新しい暫定案と旧基準から改善された点として、①基礎病態により「造血障害型」「感染症型」「基本型」を使い分ける。②基礎疾患と臨床症状でのスコアリングを削除③予後評価に有用なアンチトロンビン活性の追加（今後検証作業）④凝固線溶系分子マーカー(TAT、SF、F1+2)の追加。⑤DICと誤診されやすい肝不全で診断基準のスコアリングから3点減ずる。⑥血小板は経時の減少でスコアリングから1点加点となる。等の説明があった。一度血栓止血学会のホームページも参照され、今後の動向を追っていく必要があると思われる。

今回の研修で得た知識を整理し、新しい情報を把握しておくことにより、異常データの問い合わせに対する適切なコンサルテーションに繋がると思われた。

(文責：橋口恵子)

テーマ HCVを詳しく学びましょう

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年7月24日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックスティ 603号室 点数：専門教科－20点

講 師：藤原 稔也（オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社）

参加人数：会員36名 賛助会員4名

出席した研究班班員：齊藤雅一 佐野悦子 大島まり子 鈴木淳子 持田和紀 相坂由里子

研修内容・感想など

C型肝炎治療は日々進歩をみせ、新薬の登場が世間でも話題となっている。今回の研修会では治療薬の最新情報をはじめ、実際の症例を基にしたデータの読み方など幅広い内容の講演を聞くことができた。

日本におけるHCV感染はgenotype I型が約7割を占めるが、II型と比較してインターフェロンが効かず、高ウイルス量の場合は難治性とされる。そこで注目を集めているのがDAA（Direct Acting Antivirals）とよばれる直接作用型抗ウイルス薬である。これはHCVが増殖する際に必須となる蛋白を特異的に阻害するもので、IFN無効例や使用不可例でも治療効果が期待できる。しかし問題となるのが薬剤耐性ウイルスの出現である。適切に使用しなければ更なる耐性を獲得する恐れもあるため、DAA使用開始前には変異の有無を確実に把握しなければならない。

次にユーザー側から精査の依頼があった症例について、一緒に考えながらデータの解説をしていただいた。ごく感染初期や免疫寛容など珍しい症例もあり、興味深く聞くことができた。またHCVの特徴としてコア抗原量の増減が繰り返されることを挙げ、RNA-PCRも1度のみで陰性判定してはならないとのことである。

慢性的な経過をたどるC型肝炎も、現在では“治癒する”時代となりつつある。早期発見や耐性株の確認など検査が果たす役割は大きく、日頃の正確な検査に益々努めていきたいと感じた。

（文責：相坂由里子）

埼臨技ひろば

埼臨技有志ゴルフコンペのお知らせ

日 時：平成27年10月4日（日） 8:24 インスタート

コ ー ス：大麻生ゴルフ場

参 加 費：4,000円＋プレー費14,000円（昼食込み）

募 集 人 数：4組16名

幹 事：遠藤 敏彦（川口市立医療センター）

打田 孝枝（埼玉メディカルセンター）

申 込 み：打田まで（9月18日締め切り）

T E L：048-832-4951（内）1311

E-mail：saitama-kensa@xug.biglobe.ne.jp

件名は「ゴルフコンペ申込み」としてください。



たくさんの方の参加をお待ちしております。

**平成27年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第5回 理事会議事録**

日 時：平成27年8月7日（木）18時30分より
場 所：JCHO埼玉メディカルセンター
 さいたま市浦和区北浦和4-9-3
議 題：I. 行動報告 II. 報告事項
 III. 承認事項 IV. 議題
出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 矢作
 小山 奈良 猪浦 長岡 伊藤
 松岡 小島 濱本 藤井 長澤
 神嶋 山口 武関 野瀬
 (監事)遠藤

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は19名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聰一郎会長が務めることとなった。

I. 行動報告 (平成27年7月8日～平成27年8月6日)
 7月8日(木) 平成27年度公益社団法人第4回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、
 小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、
 松岡、小島、濱本、藤井、長澤、
 鳥山、武関、野瀬、遠藤、細谷

7月17日(金) 第44回第9回埼玉県医学検査学会
 実行委員会：岡田、長岡

7月24日(金) 第1回生涯教育委員会：
 津田、神山、島村、小山、山口、
 鳥山、武関

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 第23回埼玉糖尿病教育セミナーの後援御礼状をいただいた。
- 2) 第55回全国国保地域医療学会開会式へ津田会長が出席する回答を行った。
- 3) リレー・フォー・ライフ・さいたま2015の後援依頼があり承諾の回答を行った。
- 4) 会員より埼臨技会誌への意見をいただいた。
- 5) 県会員証を発行した。
- 6) 第26回埼玉県大腸がん検診セミナーの後援依頼があり承諾の回答を行った。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第435号、8月15日発行予定
- 2) 平成27年度会員名簿、8月15日発行予定

3 事業部

- 1) 深谷健康まつりにおける診療所開設医について
 櫻林郁之介学術顧問に開設医を依頼した。
- 2) 11月1日の検査と健康展で使用する骨密度計（1台）を茨城県臨床検査技師会より借用することとした。
- 3) 8月11日、蕨市民健康まつり第2回実行委員会に濱本事業部長が出席予定。

4 学術部

- 1) 第1回生涯教育委員会会議を開催した。
- 2) 第52回関甲信支部医学検査学会の座長を推薦した。

5 精度保証部

- 1) 平成27年度日臨技データ標準化事業概要について

6 会計部

- 1) 平成27年度正会員費31名分155,000円、入会金31名分31,000円、合計186,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金4研修会分（50,000円×3=150,000円、41,500円）、合計191,500円の入金があった。
- 3) 平成26年度データ標準化事業への助成金、基幹施設への助成金、合計210,000円を6施設に支払った。
- 4) だより第434号印刷代140,238円、埼臨技会誌Vol.62 No.1印刷代801,360円を石井印刷に支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 9月5日、平成27年度埼玉県医師会精度管理調査の試料箱詰め作業を開催予定

8 一都八県会長会議

- 1) 第52回関甲信支部学会の開催にあたり10月18日に会長会議を開催予定

9 日臨技関甲信支部

- 1) 第52回関甲信支部学会の開催にあたり10月18日に支部連絡会議を開催予定

10 日臨技

- 1) 特になし

11 第44回埼玉県医学検査学会

- 1) 7月17日、第9回実行委員会を開催した。

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成27年度分)
 平成27年8月1日現在
 会員数 2,555名
 (新入会員 188名[平成26年度会員数2,441名])
 賛助会員 61社[平成26年度 79社]

2 総務部

- 1) 特になし

3 事業部

- 1) 特になし

4 学術部

1)生涯教育研修会参加者の申請についての取り扱いについて

2)輸血研究班アンケート実施について

5 精度保証部

1)特になし

6 会計部

1)特になし

IV. 議題

1)特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

○川口市立医療センター

採用条件：正職員 平成28年4月1日採用者(3名)
平成27年9月28日締切
連絡先：048-287-2525 庶務課庶務係

○医療法人 康麗会 越谷誠和病院

採用条件：正職員
連絡先：048-966-2711 総務課 高野

○医療法人 大宮シティクリニック

採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

○所沢市市民医療センター

採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：04-2992-1151
臨床検査科 池田・元村

○株式会社ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター

採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：049-234-7310
総務部 採用担当 古田島

○春日部市立病院

採用条件：正職員
連絡先：048-735-1261 内線7261・7262
経営管理課 総務担当

○医療法人 愛友会 三郷中央総合病院

採用条件：正職員
連絡先：048-953-1325 検査科 石野

○医療法人社団 和風会 所沢中央病院

採用条件：正職員
連絡先：04-2994-1265 事務長 服部 貢

○独立行政法人 地域医療機能推進機構 さいたま北部医療センター

採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：048-663-1671 内線203
総務・企画課 二宮

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あとがき

私は飽きっぽい性格です。これまで長続きしたことといえば、仕事の他には趣味の野球くらい。以前にも野球のことは書いたことがあります、現在はそれも息子の高校野球観戦が主になっていました。それがこの夏終了。ちょっと前から、危機感は覚えていました。「土日やることがなくなるなあ、どうしようかなあ、今から考えておかなきやなあ」と。しかしそこは飽きっぽいどうしようもない性格ゆえ、その危機感さえも長続きしません。そして今どのような心境かというと、これが結構悪くないんですね。「あれもできるなあ、これもおもしろそうだなあ、でも実際やるとちょっと大変そうだなあ」と、グダグダですが・・・

仕事もプライベートも充実させている方々から見れば、シャキッとなさい！とお叱りを受けそうな休日を過ごしておりますが、来週また考えればいいやと超お気楽休日をしばらく楽しみたいと思っています。



(長岡 記)